

タイムスケジュール〔2026年5月17日（日）〕

- 10:00 京都市営地下鉄烏丸線「今出川駅」北改札集合
 (栗本徳子先生のナビゲーションにより)
 →同志社大学内 室町幕府「花の御所」発掘遺構
 →相国寺見学 (室町幕府3代将軍・足利義満創建)
 →上御霊神社 (応仁の乱 勃発の地)
 →祥晴庵
- 13:00 祥晴庵にて お食事
 ※お食事は西陣 魚新のお弁当を予定しています
- 14:00 河村晴久氏による講義と実演、所作指導
 ※当日は装束などを見せていただくほか、「敦盛」の一部の実演 (仕舞) や歩き方などの所作指導をいただきます
 ※室町時代ゆかりのお茶菓子もご用意しています
- 16:30 解散 (予定)



河村晴久氏による「敦盛」の公演の様子



西陣 魚新のお弁当 (写真はイメージ)

講師プロフィール



河村 晴久 (かわむら・はるひさ)

能楽師 観世流 シテ方 重要無形文化財「能楽」総合認定保持者 同志社大学客員教授
 昭和 31 年生まれ。幼少より父河村晴夫の教えを受け 3 歳にて初舞台。林喜右衛門に師事。京都河村能舞台を中心に活動。演能活動とともに能の歴史を研究。同志社大学大学院修了。平成 17 年度文化庁文化交流使。ハーバード大学、ユネスコ本部等海外での英語での授業、レクチャーデモンストレーションも多数。京都府文化賞功労賞を受賞 (令和 2 年度)

講義会場

祥晴庵 (京都府京都市北区小山中溝町19-2) ※裏面地図をご参照ください

受講料：19,000 円 (税込/食事代・受講料などが含まれます)

参加申込：https://ittekijuku17.peatix.com よりお申し込みください。
 <発売開始：2月28日午前10時/申込締切：5月10日>

定員：20名 (対象は中学生以上/最少催行人数：13名)

※お申し込みいただいた方に詳細をお送りいたします。

※感染症の流行や荒天などの理由により、催行中止になる場合があります。(その際は peatix より全額返金させていただきます。また、最少催行人数に満たない場合は催行を中止いたします。その場合も同様に对应致します。)

お問合せ：有限責任事業組合 一滴塾

Tel: 070-9058-6735 (13:00~19:00 (土日祝を除く))

E-mail: madoguchi@ittekijuku.jp / ホームページ：https://ittekijuku.jp



一滴塾について

一滴塾は、京都を中心として今もなお豊かに生き続けている伝統的な日本文化を、より深く学び、体感していただくための企画や講座を提供する会で、2022年に活動を開始しました。



— 相国寺と上御霊神社、能楽師 河村晴久氏の祥晴庵を訪ねて —

室町文化と世阿弥の能

開催日：2026年5月17日（日）

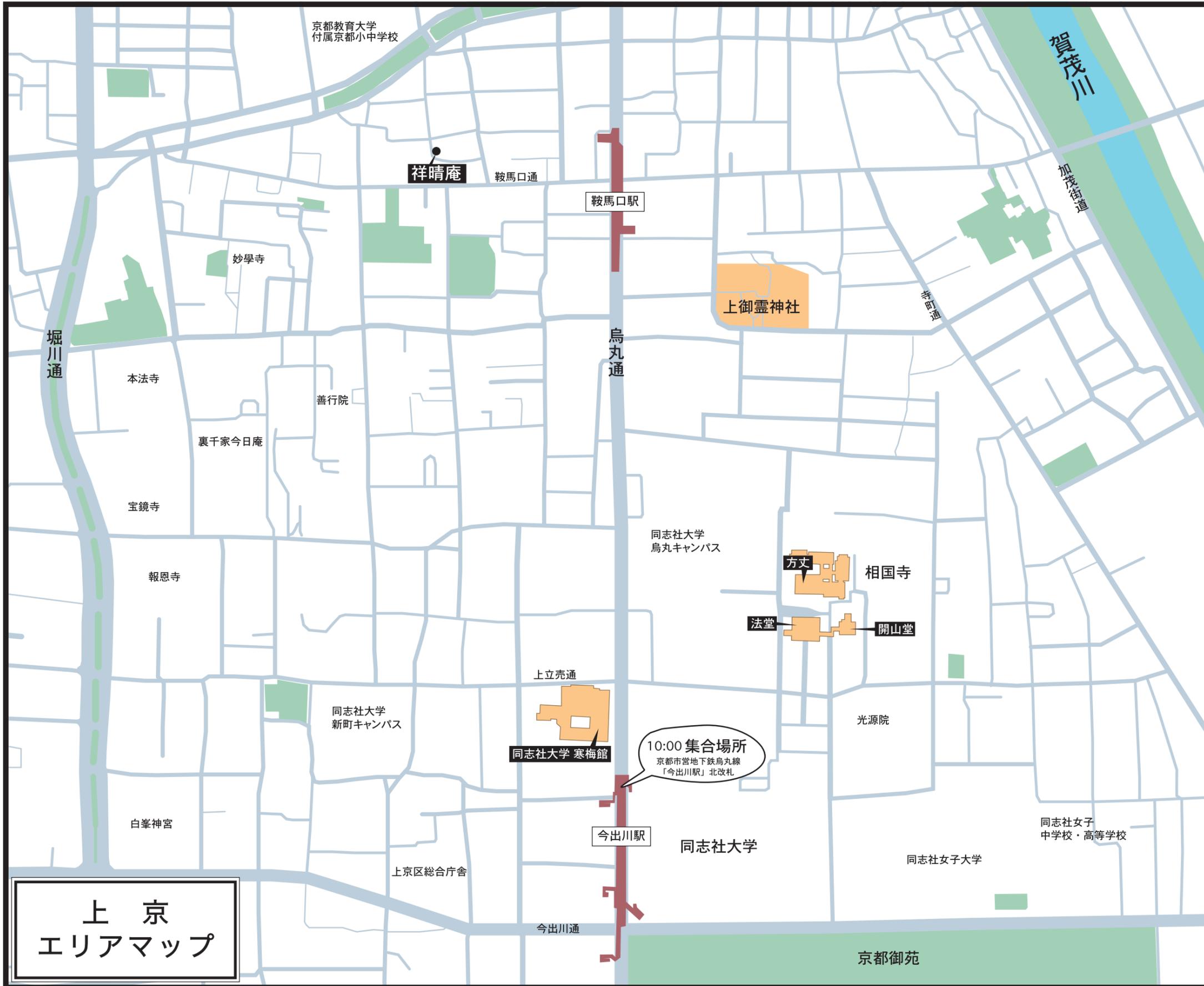
<発売開始：2026年2月28日（土）午前10時>

室町時代は、禅宗をはじめ唐物や水墨画など、中国文化への強い憧れを持ちながら、宮廷で育まれた文化や日本独自の文化をも融合させ、新たなものが生み出されていった時代です。そこから発展した茶道・華道、そして能楽が、現在も日本文化を代表するものとなっていることは、言うまでもありません。

そうした文化が育まれた將軍邸「花の御所」や足利義満が開創した相国寺のある「上京」という地域には、今なお室町文化のエッセンスが残されています。

同志社構内から発見された、室町幕府將軍邸宅「花の御所」の遺構 (一部) から、室町時代の「上京」をイメージしつつ、隣接する相国寺を訪ね、現存最古の法堂などにまずは漢の文化である禅宗文化に触れる機会といたします。その北に位置する応仁の乱勃発の地、上御霊神社では宮廷文化とのつながりを確かめます。

そして観世流能楽師 河村晴久氏の祥晴庵にて、室町時代の世阿弥が求めた「花」や「幽玄」の美について学びながら、世阿弥作「敦盛」(一部) の仕舞を鑑賞し、能の所作の体験をはじめ、能装束なども間近に拝見させていただきます。河村晴久氏は海外や日本の大学で能楽をわかりやすく解説する講座で活躍されておられます。その講義と実演によって、室町時代の美意識が今なお生き続ける能の世界を堪能したいと思います。



みどころ・学びポイント

相国寺は、応仁の乱で東軍の陣が置かれ、堂塔は全焼しました。その後も戦火や京中の大火にみまわれたため、現在の建造物は近世に再建されたものですが、今回訪ねる法堂は、豊臣秀頼の寄進によって再建された日本最古の法堂建築です。そして、上御霊神社は、当日がまさに御霊祭の還幸祭宵宮にあたります。翌日巡幸に用いられる宮中から下賜された牛車や神輿などを、宮司様のご解説でご案内いただく予定です。また祥晴庵で間近に拝見する能装束のみごとな染織技術も見所のひとつといえましょう。



栗本 徳子
(くりもと・のりこ)

1956年 京都市伏見区生まれ。同志社大学大学院文学研究科博士後期課程満期退学。京都芸術大学大学院教授。専門は日本美術史、宗教文化史、染織史。相国寺の前管長であられた大津樞堂老師に、父が参禅していたという関係もあり、学生時代から禅宗とその文化に大きな関心を抱いてきた。また、今回講師をお願いする能楽師河村晴久氏とは、同志社中学から大学院まで、同じ学舎で机を並べた学友でもある。世阿弥を研究されていた河村氏は、能楽師として芸道を歩まれるだけでなく、能の教育普及活動にも尽力されている。まさに上京を地元とする河村氏と共に、時空を超えて室町文化を体感する機会を提供することができればと願っている。